

新たな総合計画の策定について

1

01 計画策定の基本的考え方①

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

1. 策定の趣旨

- 現行の総合計画（「元気とやま創造計画」）は、平成30年3月に策定
- 計画策定から7年近くが経過し、コロナ禍を経て、激甚化する自然災害、能登半島地震、人口減少など、富山県を取り巻く社会経済情勢は、計画策定時から大きく変化するとともに、デジタル化・DXが加速する中、新たな課題への対応が求められている
- このような時こそ、県民が将来への夢と希望を持ち、豊かさと幸せを実感できるよう、分かりやすいビジョンを提示することが必要
- これらの課題に的確に対応し、新しい富山県の未来を描き、県民一人ひとりの豊かで幸せな暮らしを実現し、本県の更なる成長と発展を目指すため、富山県の将来像と県政運営の基本方針を示す、新たな総合計画を策定するもの

01 計画策定の基本的考え方②

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

2. 計画の位置付け

● 県政運営の指針

県の施策の方向性を総合的・体系的にまとめた、県政全般に関する最上位の計画
毎年度の予算編成や事業立案の基本となるもの
※まち・ひと・しごと創生法の「都道府県版総合戦略」としても位置づけ

3. 計画期間

● 令和7年度～令和11年度までの5年間

概ね10年後の将来の目指す姿を見据え、その実現に向けた5年間の施策の方向性を示す

4. 基本理念

- 県成長戦略のビジョン（幸せ人口1000万 ～ウェルビーイング先進地域、富山～）
を継承し、富山県総合計画審議会において検討

3

02 富山県総合計画審議会 委員名簿

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

氏 名	役 職 等	備考
荒井 公浩	富山県私学振興会副理事長	
大井山 靖征	日本青年会議所富山ブロック協議会会長	
大崎 雅子	富山県社会福祉法人経営者協議会副会長	
大橋 聡司	富山県建設業協会副会長	
加賀谷 重浩	富山大学学術研究部工学系教授	
片貝 仁子	富山県スポーツ協会評議員 富山県生涯スポーツ協議会副会長	
小島 伸也	富山県社会福祉協議会副会長 富山県保育連絡協議会会長	
齋藤 滋	富山大学学長	会長職務 代理者
佐伯 真未	富山県PTA連合会副会長	
坂井 朱美	富山県商工会女性部連合会副会長	
三宮 千佳	富山大学芸術文化学部准教授	
品川 祐一郎	トヨタモビリティ富山株式会社 代表取締役社長	
大門 督幸	富山県経営者協会副会長	
唐山 英明	富山県立大学DX教育研究センター所長	
中澤 宏	富山県銀行協会会長 株式会社北陸銀行代表取締役頭取	

氏 名	役 職 等	備考
延野 源正	富山県農業協同組合中央会代表理事会長	
浜守 秀樹	日本労働組合総連合会富山県連合会会長	
林口 砂里	富山県西部観光社水と匠プロデューサー	
藤野 英人	レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役社長C I O	
前田 大介	前田薬品工業株式会社代表取締役社長	
松田 光司	北陸経済連合会常任理事 北陸電力株式会社代表取締役社長	
宮田 妙子	NGOダイバーシティとやま代表理事	
麦野 英順	富山経済同友会代表幹事 とやま環境財団理事長	会長
村上 綾子	NPO法人富山県防災士会理事	
村上 満	富山国際大学子ども育成学部教授	
村上 美也子	富山県医師会会長	
森川 七菜子	公募委員	
山辺 知代	公募委員	
横井 裕	元駐中華人民共和国特命全権大使	
米山 愛	合同会社シュシュ代表社員	

委員30名（五十音順、敬称略）

1 人口減少と少子高齢化

2 自然災害の頻発化・激甚化

3 担い手の多様化

4 イノベーションの深化 / グローバル化

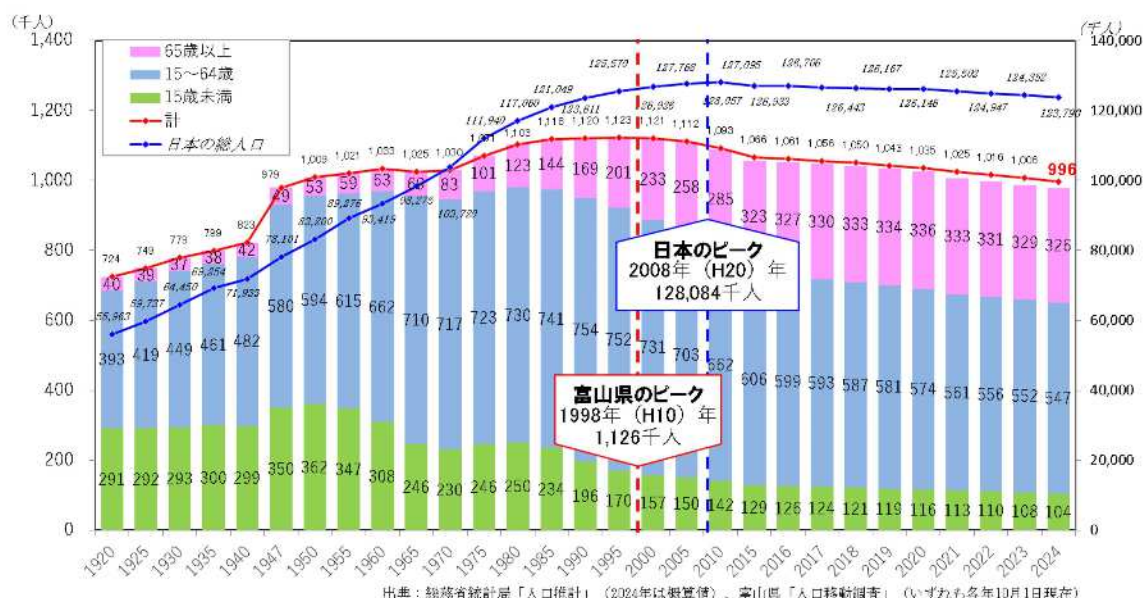
5 価値観の多様化

5

①人口減少と少子高齢化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

○富山県の人口は、全国より10年早い1998年をピークに減少に転じる
○年齢3区分別の人口構成をみると、65歳以上の割合が拡大する一方、15歳未満は減少が続いており、人口構成が変化



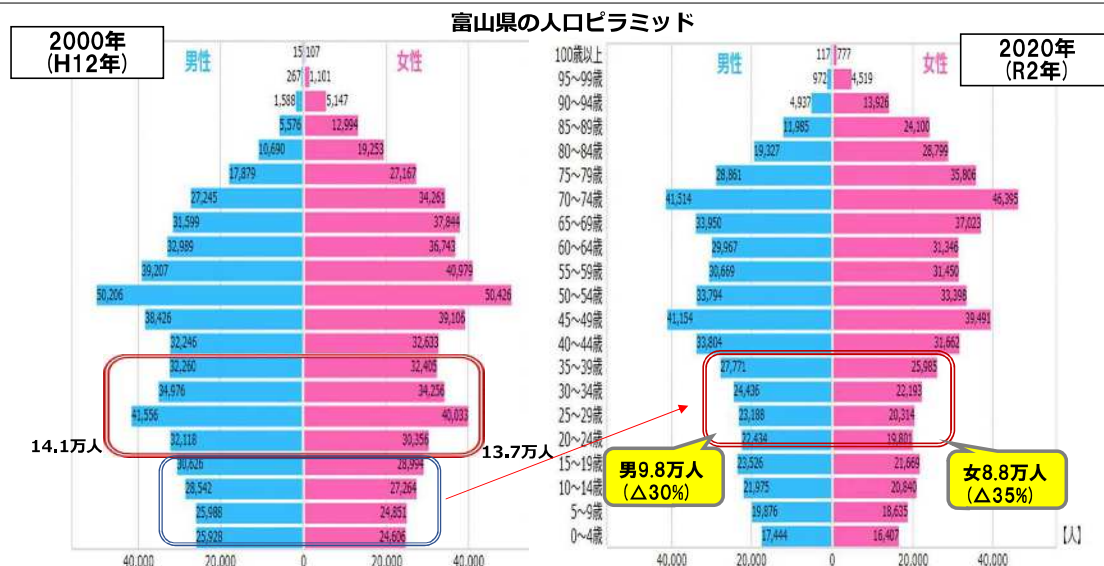
6

①人口減少と少子高齢化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

○近年の出生数のピーク年である2000年から20年が経過し、出生を取り巻く環境は大きく変化
・出生数10,170人⇒6,256人(61%) ・婚姻件数6,307件⇒3,720件(59%)

本県の出生数と大きく関わる20～39歳人口は△33%（男性△30%の9.8万人、女性△35%の8.8万人）
女性が9千人余り少ない

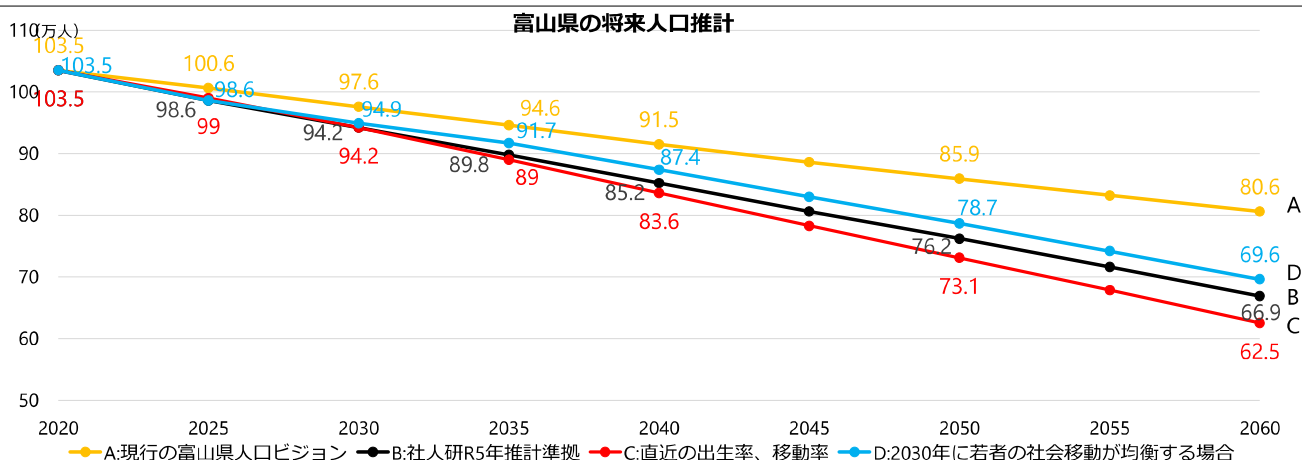


7

①人口減少と少子高齢化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

○2015（H27）年10月策定の「富山県人口ビジョン」では、2060年の県の目標人口を80.6万人と設定
○国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計や直近の指標を用いて試算した結果、富山県の将来人口は2060年には62～69万人台まで減少する見込み



【試算の仮定等】

A：現行の富山県人口ビジョン…自然増減：2030年：1.9 2040年：2.07、社会増減：2020年までに若者（15～34歳）の移動均衡
B：社人研R5年推計準拠…自然増減：2025年：1.31、2030年：1.35、2035年：1.39、2045年：1.40、2050年以降：1.40程度で推移
社会増減：2025～2030年の間に転入超過に転じ、以降継続
C：直近の出生率、移動率を用いた試算…自然増減：社人研推計（R5年推計）による2025年の出生率（1.31）が継続
（現行の水準が継続すると仮定） 社会増減：独自試算（2023年富山県人口移動調査をもとに試算）した2023年の移動率が今後も継続
D：2030年に若者の社会移動が均衡する場合…自然増減：社人研推計（R5年推計）に準拠
社会増減：2023年の15～34歳の転出超過数（※）が段階的に縮小（※2020人。総務省「2023年住民基本台帳人口移動報告」より）

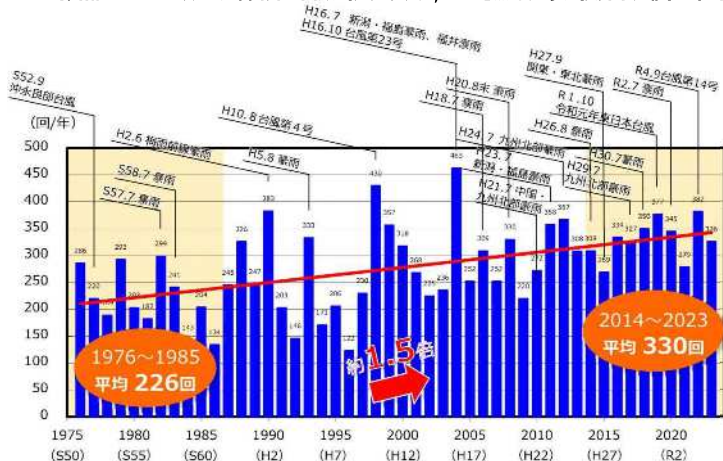
8

②自然災害の頻発化・激甚化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

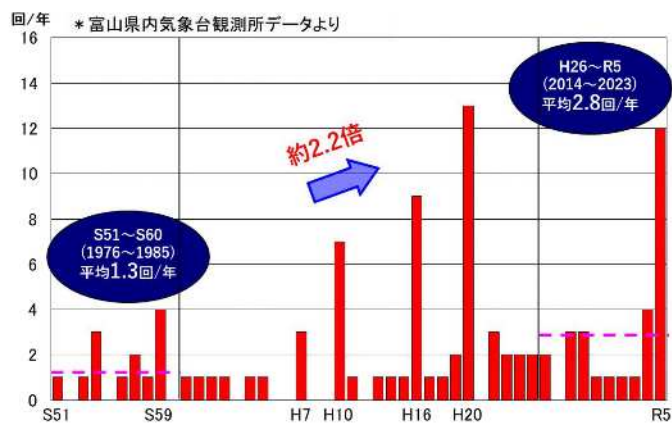
○全国的に時間雨量50mmを上回る短時間強雨の発生数が増加しており、年間発生件数（10年平均）は、全国では約1.5倍、富山県では約2.2倍に増加している

時間雨量50mm以上の年間発生回数（アメダス1,300地点あたりに換算した値）（全国）



出典：国土交通省「水害レポート2023」

富山県内の時間雨量50mm以上の降雨の観測回数



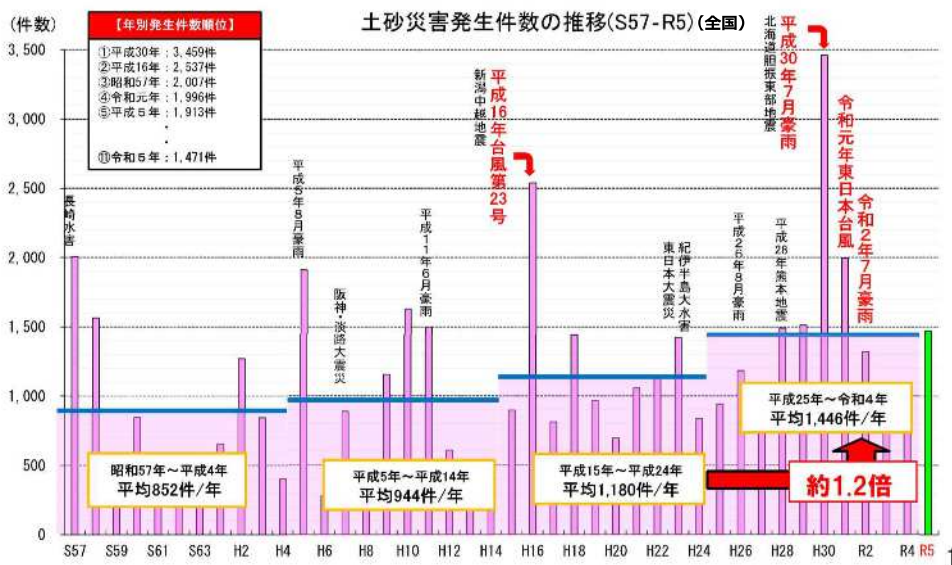
出典：富山県内気象台観測所データ

9

②自然災害の頻発化・激甚化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

○近年、全国的な土砂災害の発生件数は増加傾向にある。令和5年には43道府県で1,471件の土砂災害が発生した（富山県12件）



出典：国土交通省砂防部HP

10

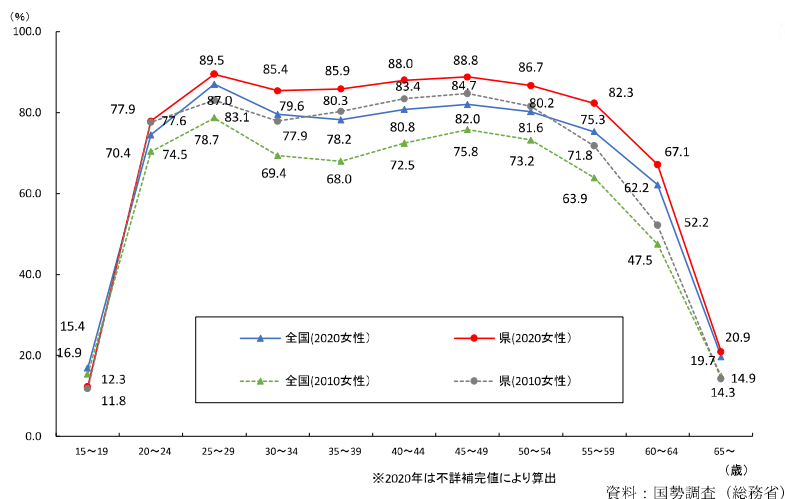
③担い手の多様化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

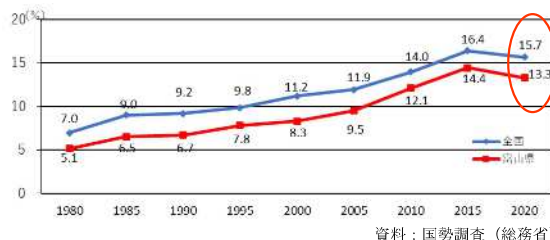
○女性の年齢別労働力率は、いわゆるM字カーブ（25～39歳の年齢層で労働力率が低下する現象）の形状となるが、本県では、全国と比べ低下の度合いは低く、10年前と比べてもM字度（谷の部分）の解消が進んでいる

○一方、管理的職業従事者の割合が少ないなど、昇進や賃金などの面で男女間の格差が残っている

・女性の年齢別労働力率（M字カーブ）（全国・富山県）



・管理的職業従事者に占める女性の割合（全国・富山県）



・男女の所定内給与と男女間賃金格差（全国・富山県）

	男性	女性	男女間賃金比率
全国	302.1千円	259.6千円	0.86
富山県	289.2千円	236.4千円	0.82

※男女間賃金比率：男性賃金1に対する女性賃金
30～34歳・一般労働者（フルタイム）

資料：賃金構造基本統計調査（厚生労働省）

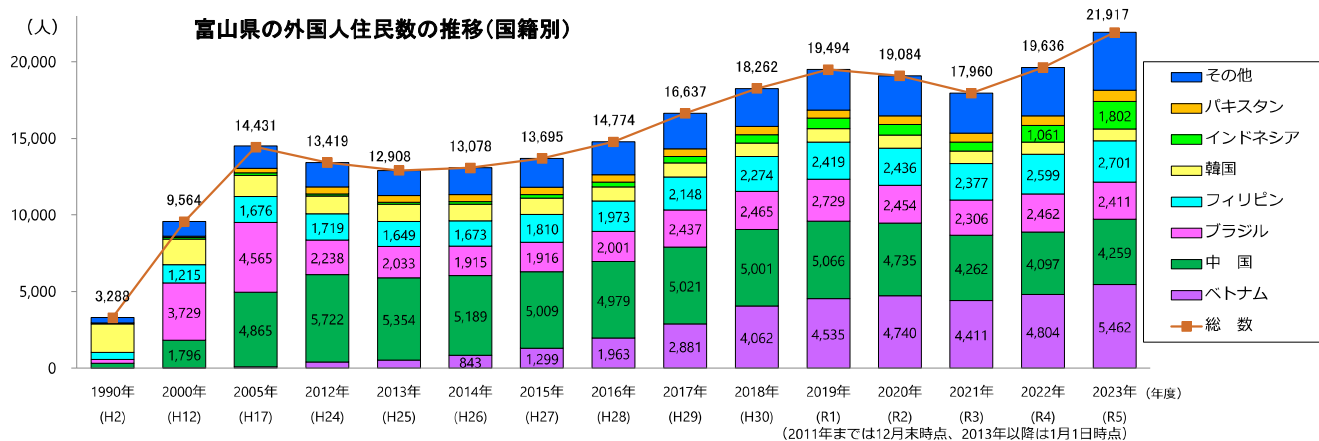
11

③担い手の多様化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

○県内における外国人住民数は、2023年度は過去最多の21,917人となった

○国籍別にみると、近年は就労関係の在留資格を主とするインドネシア（R4⇒R5 741人増）、ベトナム（R4⇒R5 658人増）の増加が顕著である



12

④イノベーションの深化／グローバル化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

- 近年、世界における生成AIの市場規模は急速に拡大しており、2027年には1,200億ドル規模になると予測されている
- 2022～2025年の年平均成長率をみると、あらゆる分野で50%以上の年平均成長率となっている



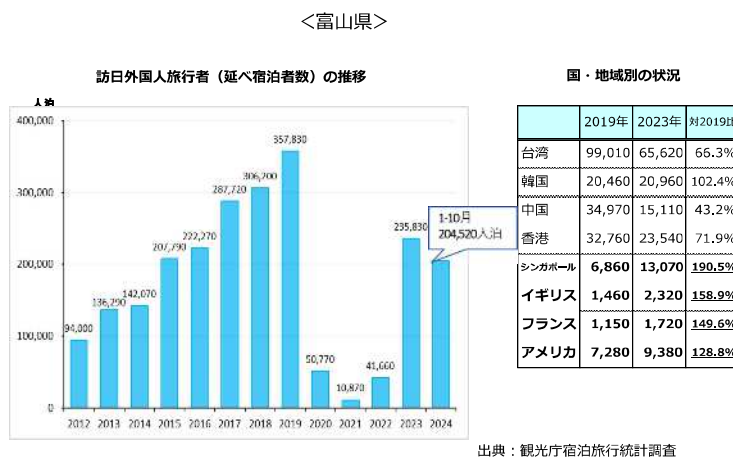
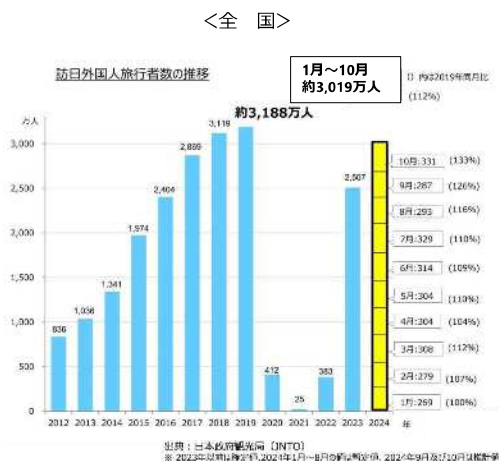
出典：総務省「令和6年版情報通信白書」

13

④イノベーションの深化／グローバル化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

- 2024年1～10月の訪日外国人旅行者数は2019年比12.2%増の約3,019万人で、1964年の統計開始から過去最速で年間累計3000万人を突破
- 本県においても、訪日外国人旅行者は急速に回復しつつあり、東南アジアや欧米については、コロナ前の2019年と比較し、シンガポール190.5%、イギリス158.9%、フランス149.6%と、いずれもコロナ前の水準を大きく上回っている



14

⑤価値観の多様化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

<働き方>

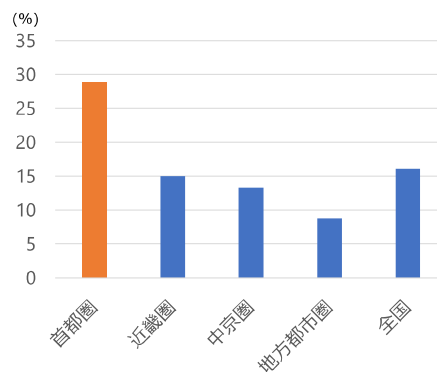
- 2020年の新型コロナウイルス感染症の拡大後、テレワークの導入が急速に進んだ
- 直近1年間のテレワーク実施率は、首都圏では依然として高い水準となっている

・テレワーク導入率の推移（全国）



出典：令和6年版 情報通信白書

・直近1年間のテレワーク実施率【R5】



出典：国土交通省 令和5年度テレワーク人口実態調査をもとに富山県作成

15

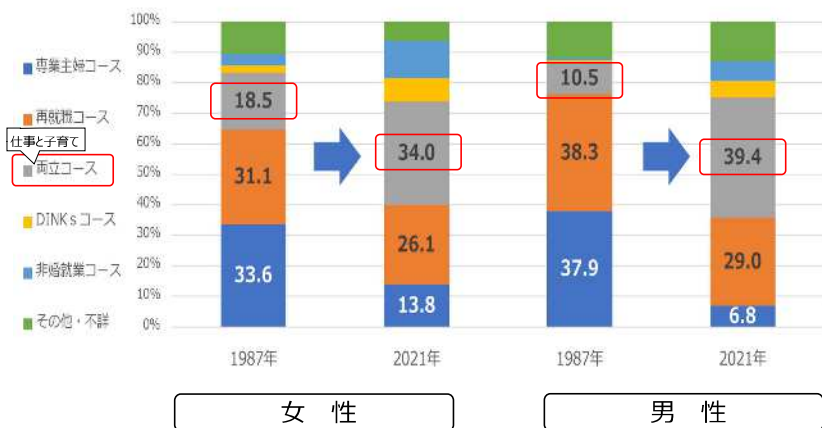
⑤価値観の多様化

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

<ワーク・ライフ・バランス>

- 未婚の若者が考える理想のライフコースは、男女ともに約30年前と比べて大きく変化しており、未婚男女ともに、仕事と子育てを両立させる生き方を理想とする割合が初めて最多となった
- 学生の意識も変化しており、特に男子学生の「育児休業をとって子育てしたい」割合はこの数年で大きく上昇している

18～34歳の未婚男女の理想のライフコース（全国）



出典：第16回出生動向基本調査（国立社会保障・人口問題研究所）

学生の「育児休業をとって子育てしたい」割合（全国）



出典：厚生労働省雇用環境・均等局「職業生活両立課人口減少社会への対応と人手不足の下での企業の人材確保に向けて」から抜粋

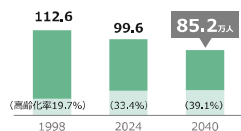
16

04 計画策定に係る検討のポイント

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

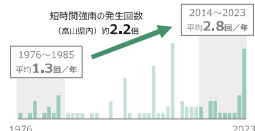
富山県を取り巻く環境変化と課題

人口減少と 少子高齢化



富山県の人口は、1998年の112.6万人をピークに、2040年には85.2万人まで減少すると予想（社人研）。人口減少を緩和する取組みと、将来の人口構造を踏まえた社会づくりが求められる

自然災害の 頻発化・激甚化



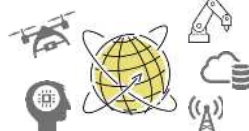
R6能登半島地震では、富山県における観測史上最大の震度5強を記録。気候変動等により、自然災害のリスクは高まってきており、頻発化・激甚化する災害への備えが不可欠

担い手の多様化



ジェンダー平等、働き方改革、外国人材の受入れなど、多様な人々が活躍できる環境整備が進展。年齢、性別、国籍等に関わらず、誰もが活躍でき、共に支え合う社会の実現が求められる

イノベーションの深化 グローバル化



AI、ロボット等の先端技術の実装が進み、生活や経済活動の在り方が大きく変化。技術革新やグローバル化の進展は、産業構造や働き方、暮らし方に変革をもたらすことが期待される

価値観の多様化



コロナ禍を経て、働き方や結婚、幸せや豊かさに関する価値観が多様化。ウェルビーイングへの関心も高まっている。誰もが自分らしく暮らせる社会の実現が求められる

県づくりの視点 ～ビジョンと目標～

ワクワクする富山県

ワクワクすることがたくさんあり、県民が誇りをもって暮らし、国内外から人や企業を呼び込む求心力がある

持続可能でしなやかな富山県

変化に柔軟に対応し、①安全・安心、快適で、災害に強い生活基盤、②競争力のある産業基盤がある

みんなで創る富山県

多様性を認め合い、富山に関わる全ての人にチャンスがあり、自分らしい生き方や夢を実現できる

17

05 政策の2つの柱

第1回総合計画審議会(R7.1.31)資料

I 未来に向けた人づくり

— 本県の活力を支え、発展の礎 —

人口減少が進展し、予測困難で変化の激しい社会の中においても、本県がウェルビーイング先進地域として発展し、県民一人ひとりの豊かで幸せな暮らしを実現するため、本県の活力を支え、発展の礎となる「未来に向けた人づくり」を進める

Keyword こどもまんなか／教育／共生社会／スタートアップ／健康・医療・福祉／文化・スポーツ …

II 新しい社会経済システムの構築

— 県民が躍動する舞台を創出 —

人口減少・社会構造の変化の中で、多様な社会課題への対応や新しい価値の創出のため、新たなビジネススキームや業務プロセス等の構築、県と市町村、国、民間との役割分担や連携の抜本的見直しなど、県民が躍動する舞台となる「新しい社会経済システム」を構築する

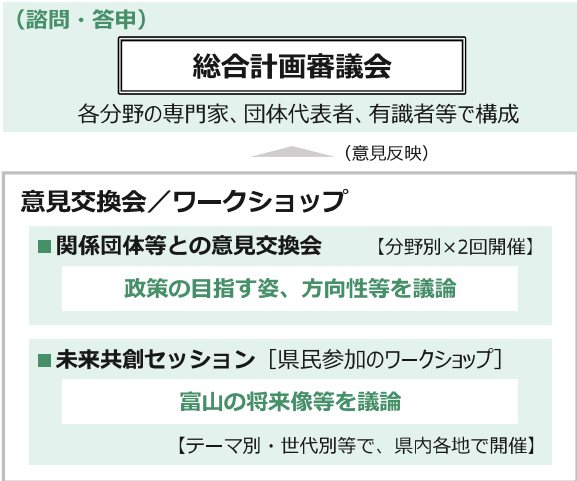
Keyword インフラ・県土強靱化／新産業／農林水産／まちづくり・公共交通／DX・GX／観光 …

18

06 計画策定の進め方①

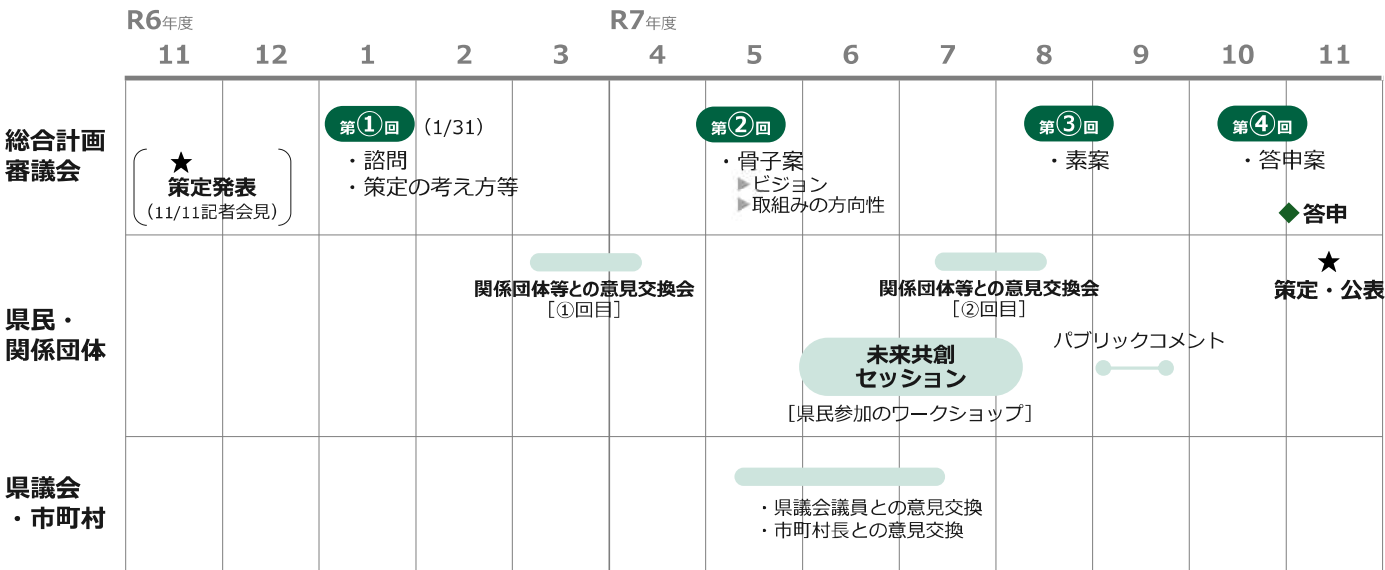
1. 検討体制

- **総合計画審議会の開催**
新たな総合計画の策定に関する重要事項について調査・審議
- **意見交換会・ワークショップの実施**
県民と共に考え、共に実現する、県民が主役の計画づくりを進めるため、多くの県民や関係団体等との意見交換や対話の機会を確保
 - ▶ 分野別に、**関係団体等との意見交換会**の開催
 - ▶ 県内各地で、県民参加のワークショップ「**未来共創セッション**」の開催



06 計画策定の進め方②

2. 策定スケジュール（予定）



07 第1回総合計画審議会での主な意見

- あらゆる分野が連携して、「こどもまんなか社会」を実現すべき
- 外国人、女性、高齢者など、多様な人材が活躍できる環境整備が必要
- 若者や女性の県外流出を抑制し、県外から人材を呼び込むためにも、魅力ある産業の創出や魅力ある地域づくり、子育て支援の充実が必要
- 県民のウェルビーイングを支える新しい産業社会基盤を構築し、「人が集まりたくなる富山」を目指すべき
- ウェルビーイング先進地域と関係人口1000万を本気でつくろうとしているということで、「二拠点居住するなら富山」という観点から魅力づくりをすべき
- 留学生の将来的な増加も見据えて、外国人にとっても魅力的で過ごしやすいまちにしていける取り組みが必要。地元企業に就職してもらうことで、活力をあげていきたい
- 富山県が抱える課題は、日本全体が抱える課題であり、総合計画を通じて、全国に先駆けた実効性のある政策を検討していきたい

21

08 成長戦略会議でご意見いただきたいこと

新たな総合計画では、概ね10年後の将来の目指す姿を見据え、その実現に向けた5年間の施策の方向性を示すこととしているが、

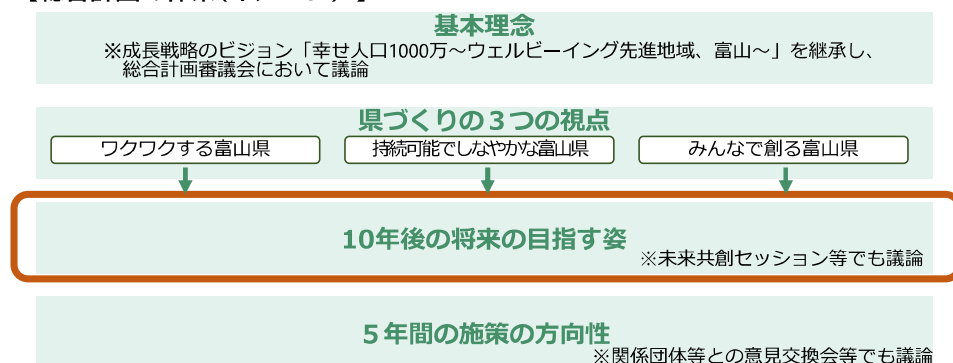
成長戦略会議の各委員には、専門的な立場から、

①今後10年間の大きなトレンドや起こりうる変化は何か

②そのトレンドや変化を見据えて、どの様な富山県の姿を目指すべきか

について、ご意見いただきたい。

【総合計画の体系(イメージ)】



22